

付 1 . 委員会

付1. 委員会

各委員会を下記のとおり実施した。(開催日と主な議題を記す。)

1. 企画運営委員会

- (1) 第169回 2020年5月8日(金)
前年度事業実績報告及び決算報告(理事会議案書)について
- (2) 第170回 2020年8月6日(木)
意見交換: コロナ禍における「働き方の変化」並びに今後について
- (3) 第171回 2020年10月2日(金)
講演「JFMA 調査研究部会活動内容並びにタスクホース活動について」他
- (4) 第172回 2020年12月3日(木)
意見交換: 今後のJFMAの活動について(来年度事業計画策定にあたり) 他
- (5) 第173回 2021年2月4日(木)
次年度事業計画及び事業予算【案】(理事会議案書)について

2. 資格制度関連委員会

A. 資格制度委員会

- (1) 第1回 2020年8月24日(月)
主な議題: 次年度の資格試験のCBT試験導入の検討、C方式修了考査問題の承認、更新講習テキストについて、次年度の資格試験実施計画等について
- (2) 第2回 2020年9月28日(月)
主な議題: 次年度の資格試験の学科・論述試験にCBT試験導入の検討、学科試験問題作成方法、学科合格者・最終合格者の決定方法、他
- (3) 第3回 2020年12月17日(水)
主な議題: 次年度試験委員・更新講習委員の承認、更新講習修了者の決定等について

B. 試験委員会

(試験委員会委員任期は2020年1月1日～12月31日)

(試験委員会)

- (1) 第1回試験委員会 2020年1月16日(木)
主な議題: 試験問題案の審議等
- (2) 第2回試験委員会 2020年2月15日(土)
主な議題: 試験問題案の審議等
- (3) 第3回試験委員会 2020年3月14日(土) 中止
- (4) 第4回試験委員会 2020年4月11日(土) 中止
- (5) 第5回試験委員会 2020年7月19日(日) 中止
- (6) 第6回試験委員会 2020年12月10日(木)
主な議題: CBT試験導入に伴う試験問題案の作成方法等

(リーダー・サブリーダー会議)

- (1) 第1回リーダー・サブリーダー会議 2020年4月28日(火) 中止
- (2) 第2回リーダー・サブリーダー会議 2020年5月13日(水) 中止
- (3) 第3回リーダー・サブリーダー会議 2020年5月26日(火) 中止
- (4) 第4回リーダー・サブリーダー会議 2020年7月13日(月) 中止
- (5) 第5回リーダー・サブリーダー会議 2020年10月1日(木) 中止
- (6) 第6回リーダー・サブリーダー会議 2020年10月13日(火)(第1回として開催)
主な議題: 最新4か年認定ファシリティマネジャー資格試験問題集の編集について

C. 更新講習委員会

- (1) 第1回 2020年1月24日(金)
資格制度委員会議事内容の報告、委員会スケジュール(案)の確認
- (2) 第2回 2020年8月17日(月) Web-ハイブリッド会議
更新テキスト完成版、C方式修了考査問題完成版の確認等
- (3) 第3回 2020年9月14日(月) Web-ハイブリッド会議
2021年度の新D方式(Web方式)集合講座について協議

- (4) 第4回 2020年12月14日(月) Web - ハイブリッド会議
2020年度更新講習課程修了者の承認、次年度更新講習計画案の確認
- (5) 第5回 2021年1月18日(月) Web - ハイブリッド会議
資格制度委員会の報告、次年度更新テキスト加筆修正案について協議

※新型コロナウイルス感染症対応策に伴い、2020年3月から7月までは委員会を開催できず、メール等による委員長指示にて更新テキストの修正・追記、C方式修了考査問題の制作を実施した。
2020年度はコロナ禍の影響でD方式の集合講座は中止し、C方式への移行に徹した。

3. 調査研究委員会

- (1) 第119回 2020年7月6日(月) Web 会議
ファシリティマネジメントフォーラム2020の振り返り、各タスクフォースの内容について
- (2) 第120回 2020年8月5日(水) Web 会議
FM秋の夜学校、各タスクフォースの進捗状況について
- (3) 第121回 2020年11月30日(月) Web 会議
秋の夜学校振り返り、ファシリティマネジメントフォーラム2021部会発表について
- (4) 第122回 2021年1月28日(木) Web 会議
調査研究委員会の役割、ファシリティマネジメントフォーラム2021全体概要について

4. 教育研修委員会

- (1) 第1回 2020年5月18日(月)
- ・ファシリティマネジメントフォーラム2020 活動報告(アンケート結果ほか)
 - ・今年度の教育研修事業のあり方について(新型コロナウイルス感染禍の状況を踏まえ)
- (2) 第2回 2020年6月19日(金)
- ・今年度の教育研修事業のあり方について(具体案の抽出ほか)
 - ・ファシリティマネジメントフォーラム2021について中間報告&意見収集
- (3) 第3回 2020年9月25日(金)
- ・ファシリティマネジメントフォーラム2021 開催概要(中間)報告&意見収集
 - ・今年度の教育研修事業の開催状況を中間報告&意見交換
- (4) 第4回 2020年12月4日(金)
- ・今年度の教育研修事業の実施状況報告&意見収集
 - ・ファシリティマネジメントフォーラム2021 開催概要(経過)報告&意見収集
FORUM「プログラム」、「基調・特別講演」講演者決定、「応募講演」応募状況について
- (5) 第5回 2021年3月10日(水)
- ・ファシリティマネジメントフォーラム2021 結果報告&意見(感想)収集
 - ・次年度「セミナー・研修会」のあり方について

5. 広報委員会

- (1) 第133回 2020年9月15日(火) Web 会議 (Zoom)
JFMAジャーナル編集、ファシリティマネジメントフォーラム2021の開催について
- (2) 第134回 2020年11月5日(木) Web 会議 (Zoom)
JFMAジャーナル編集、広報委員会の活動テーマについて
- (3) 第135回 2021年1月29日(金) Web 会議 (Zoom)
JFMAジャーナル編集、ファシリティマネジメントフォーラム2021の開催について
- (4) 第136回 2021年3月11日(木) Web 会議 (Zoom)
JFMAジャーナル編集、ファシリティマネジメントフォーラム2021について

6. FM推進戦略委員会

- (1) 第 51 回 2020 年 6 月 3 日(水)
 - ・講演「公共施設のしまいかた」前橋工科大学 堤 洋樹 様
 - ・FM フォーラム 2020 実施報告
- (2) 第 52 回 2020 年 8 月 5 日(水)
 - ・講演「これからのワークプレイスを考える」
(株)ザイマックス不動産総合研究所 中山 善夫 様
- (3) 第 53 回 2020 年 10 月 7 日(水)
 - ・講演「プロパティの BIM 連携」プロパティデータバンク(株) 板谷 敏正 様
 - ・講演「BIM モデルと FM をつなぐ考え方」日本郵政不動産(株) 齋藤 隆司 様
- (4) 第 54 回 2020 年 12 月 2 日(水)
 - ・FM フォーラム 2021 開催概要の説明
 - ・講演「街づくり目線で考える公共施設再編と広域連携」東京都立大学 讃岐 亮 様(1)

7. JFMA 賞審査委員会

- (1) 第 1 回 2020 年 10 月 27 日(火)
 - 表彰規程概要確認、応募案件について意見交換、
現地調査実施候補の選定、今後の進め方について
- (2) 第 2 回 2020 年 12 月 4 日(金)
 - 各賞推薦対象案件説明、各賞案件決定、今後のスケジュールについて

8. ISO/TC 267 ファシリティマネジメント国内専門委員会

本委員会の下に「FM JIS 原案作成委員会」を設立し、ISO 41001 に対応する FM JIS 原案 (JIS Q 41001) の作成について審議。

- (1) 第 2 回 2020 年 7 月 8 日 (水) - 7 月 17 日 (金)
 - JIS Q 41001 本文：書面審議
- (2) 第 3 回 2020 年 9 月 8 日 (火) - 9 月 18 日 (金)
 - JIS Q 41001 附属書：書面審議
- (3) 第 4 回 2020 年 10 月 15 日 (木)
 - JIS Q 41001 本文、附属書、解説の素案が承認。
その後、日本規格協会 (JSA) に納入し、JSA の審査及び経産省の審査を受ける。

※ 第 1 回 FM JIS 原案作成委員会は、2019 年度に実施済み。

9. コンプライアンス委員会

- (1) 第 18 回 2020 年 9 月 18 日(金) コロナ感染時の対応、労働環境の改善 他について
- (2) 第 19 回 2021 年 3 月 18 日(木) SNS、Web 配信における知的所有権 (著作権) 他について

付 2. 資格認定事業

付2. 資格認定事業

ファシリティマネジメントの専門家として「ファシリティマネジャー資格者」を一般社団法人ニューオフィス推進協会及び公益社団法人ロングライフビル推進協会と連携して認定する。このため、認定ファシリティマネジャー資格試験、資格登録、資格更新を制度化している。

資格試験を1997年度から毎年1回実施、2019年度まで累計15,067名の合格者を輩出し、今期末時点の資格登録者数は6,631名である。

受験資格は定めず誰でも受験可能であるが、資格登録には一定の実務経験を要することとしている。資格有効期間を5年とし、資格更新のために必要な講習会を毎年3回実施している。

認定ファシリティマネジャー資格者は、わが国及び海外の企業団体等においてファシリティマネジメントの実務を担っている。

1. 認定ファシリティマネジャー資格試験

次のとおり予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。

(1) 試験日	2020年6月28日(日)
(2) 試験会場	東京： 学習院大学 目白キャンパス西5号館、北1号館 大阪： 大阪化学技術センター 札幌： 北海道自治労会館 名古屋： 名古屋商工会議所 福岡： 福岡商工会議所 仙台： 国際マルチビジネス専門学校 広島： R C C文化センター 金沢： 石川県教育会館 高松： 高松商工会議所
(3) 試験内容	学科試験及び論述試験
(4) 受験申込期間	2020年4月1日(水)～同年5月15日(金)
(5) 合否発表	2020年9月1日(火)
(6) 申込者数	0名
(7) 受験者数	0名
(8) 合格者数	0名

2. 認定ファシリティマネジャー資格登録

認定ファシリティマネジャー資格試験の合格者のうち、一定の実務経験保持者で申請のあった者に対し、「認定ファシリティマネジャー資格者(CFMJ)」の称号を付与し登録する。

登録申請は試験合格の後いつでも行うことが出来るが、合格後5年を経過した場合には更新講習を受講することを要する。今年度登録者数は84名。内、今年度の試験中止のため当該年度の登録者は0名。

3. 認定ファシリティマネジャー資格更新登録

認定ファシリティマネジャー資格有効期間が5年であることから、資格有効期間が満了する者を対象として、次の4方式による資格更新を行う。

なお、すでに資格有効期間が過ぎ更新していない者が改めて資格登録を希望する場合、及び試験合格後5年を経過した者が初めて資格登録を行う場合には「C方式(在宅講座)」または、「D方式(集合講座)」を受講することにより資格登録を行うことが出来る。

(1) 資格更新登録方式

- A：個人会員
- B：FM活動ポイント
- C：在宅講座
- D：集合講座 ⇒ (2020年度は新型コロナウイルス感染症対策に伴い中止とした)

(2) 申込受付期間

2020年8月3日(月)～同年9月18日(金)

(3) D方式(集合講座)の開催日程と開催地 ⇒新型コロナウイルス感染症対策に伴い中止

2020年10月16日(金) 大阪 中止

2020年10月22日(木) 東京(1回目) 中止

2020年10月23日(金) 東京(2回目) 中止

(4) 更新登録者数

1,028名

(資格更新登録方式別内訳)

A : 125名

B : 40名

C : 863名

D : 0名

4. 認定ファシリティマネジャー合格者・資格登録者等の現状

(1) 認定ファシリティマネジャー（CFMJ）資格者統計データ

2021年3月31日現在

	CFMJ 資格試験				CFMJ 資格試験 合格者データ								CFMJ 資格登録者 ※1		
	受験 申込者 (人)	受験者A (人)	合格者B (人)	合格率B/A (%)	平均 年齢 (歳)	最高 年齢 (歳)	最低 年齢 (歳)	男性 (人)	男性 比率 (%)	女性 (人)	女性 比率 (%)	※3 新規 登録者 (人)	※2 更新 登録者 (人)	有効 登録者 (人)	
1997年 ※4 (平成9年度)	2,316 -679	2,132 -679	981 -679	46	40	70	25	941	96	40		4 -679	981 -	1,660	
1998年 ※4 (平成10年度)	2,001 -109	1,809 -109	753 -109	42	39	64	25	720	96	33		4 -109	753 -	2,522	
1999年 ※4 (平成11年度)	1,688 -132	1,489 -132	640 -132	43	39	65	25	605	95	35		6 -132	640 -	3,294	
2000年 (平成12年度)	2,022	1,783	895	50	40	61	25	864	97	31		4	895 -	4,189	
2001年 (平成13年度)	2,463	2,172	861	40	39	64	22	815	95	46		5	634 -	4,823	
2002年 (平成14年度)	2,517	2,145	927	43	39	63	20	882	95	45		5	694 959	5,517	
2003年 (平成15年度)	2,399	2,052	824	40	38	66	22	761	92	63		8	635 743	5,437	
2004年 (平成16年度)	1,932	1,653	684	41	40	61	20	633	93	51		8	527 575	5,858	
2005年 (平成17年度)	2,017	1,677	683	41	38	62	20	621	91	62		9	550 514	6,212	
2006年 (平成18年度)	1,651	1,349	555	41	37	68	22	494	89	61		11	448 527	6,279	
2007年 (平成19年度)	1,701	1,395	540	39	38	61	20	491	91	49		9	433 1,165	6,514	
2008年 (平成20年度)	1,748	1,436	635	44	36	65	19	568	89	67		11	466 892	6,540	
2009年 (平成21年度)	1,488	1,272	510	41	42	66	20	456	89	54		11	413 783	6,468	
2010年 (平成22年度)	1,324	1,137	490	43	40	65	21	432	88	58		12	376 748	6,363	
2011年 (平成23年度)	1,217	1,071	471	44	39	62	21	419	89	52		11	380 683	6,406	
2012年 (平成24年度)	1,174	1,025	450	44	39	67	21	406	90	44		10	389 1,176	6,521	
2013年 (平成25年度)	1,196	1,034	450	44	39	65	24	394	88	56		12	391 986	6,453	
2014年 (平成26年度)	1,224	1,075	472	44	39	62	21	413	88	59		13	398 878	6,447	
2015年 (平成27年度)	1,283	1,074	473	44	40	67	22	417	88	56		12	426 823	6,565	
2016年 (平成28年度)	1,315	1,070	470	44	41	69	21	407	87	63		13	387 807	6,645	
2017年 (平成29年度)	1,300	1,036	455	44	39	68	22	380	84	75		17	374 1,117	6,751	
2018年 ※5 (平成30年度)	1,214	937	412	44	41	69	23	335	81	77		19	365 1,074	6,679	
2019年 (令和元年度)	1,447	1,172	516	44	40	65	21	414	80	102		20	409 998	6,821	
2020年 ※6 (令和2年度)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		-	84 1,028	6,631	
1997-2020年度 累計	39,557	33,915	15,067	-	-	-	-	12,868	-	1,279	-	-	-	-	

★各年度の資格登録者数は3月31日時点のものです。最新年度の資格登録者数は、上記の日付に拠ります。

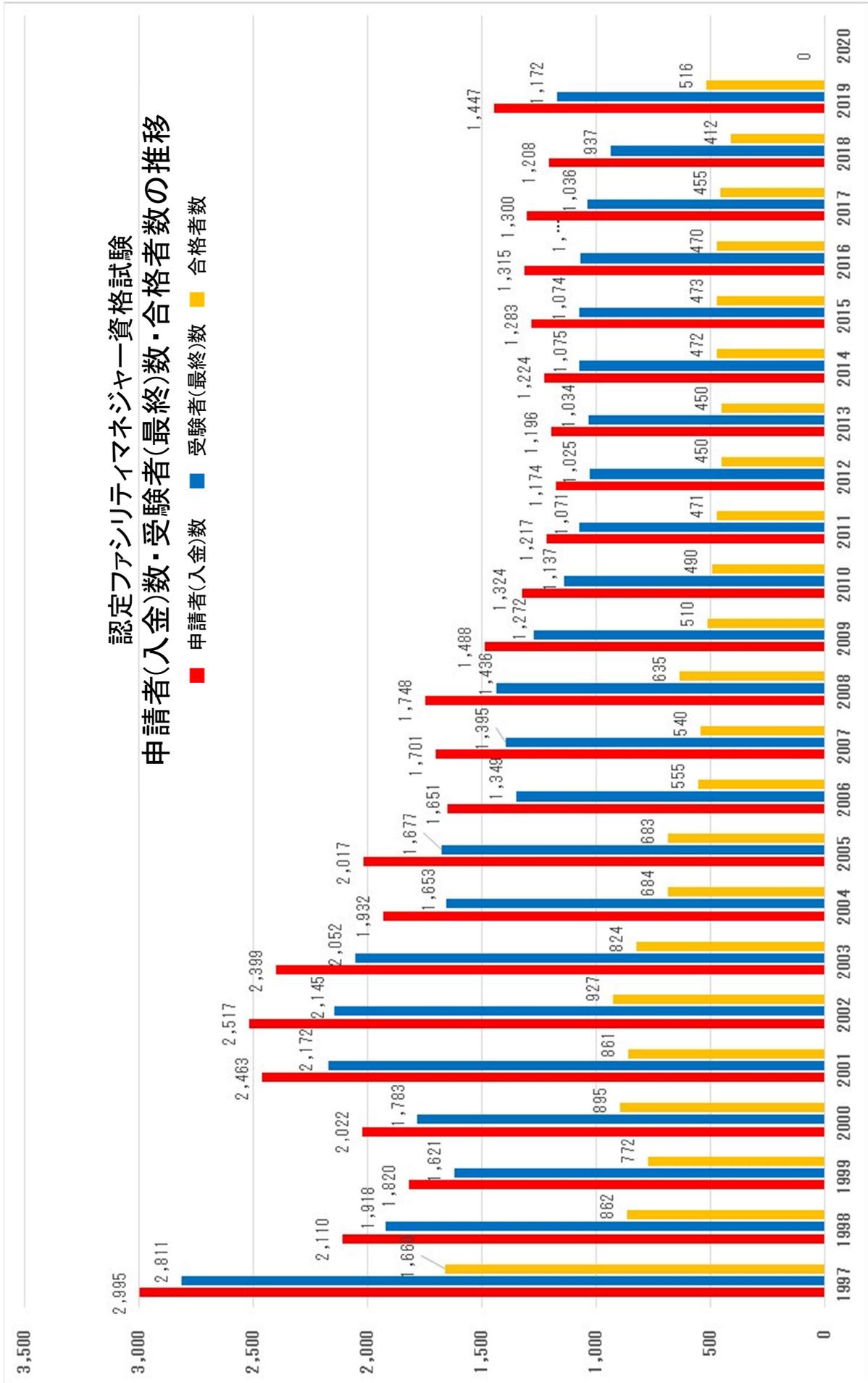
CFMJ (Certified Facility Manager of Japan)

F M 資格制度協議会が認定するファシリティマネジャー資格
(次の3団体が認定する)

- ①公益社団法人 日本ファシリティマネジメント協会 (J F M A)
- ②一般社団法人 ニューオフィス推進協会 (N O P A)
- ③公益社団法人 ロングライフビル推進協会 (B E L C A)

1. 登録者とは、試験に合格して資格の新規登録申請を行い、審査の上、認定ファシリティマネジャー(CFMJ)の称号を付与された資格取得者を示します。
2. 資格更新登録者には、以下の方が含まれます。①登録有効期間(合格または更新後5年)の満了にともない、継続して登録した方 ②登録有効期間を過ぎて失効し再登録した方、
③資格試験合格後5年以内に初回登録をせず、更新講習を受講した後に新規登録をした方
3. 新規登録者には、以下の方が含まれます。①登録有効期間内(合格後5年以内)に初回登録をした方 ②前年に更新講習を受講後初回登録をした方
4. 1997年度・1998年度・1999年度の資格試験・新規登録者欄の[上段]は受験による人数、[下段] ()内は特別措置による特別講習修了者の人数(合格者とみなす)が表記されています。(特別講習は1997年から3か年に限っての特別措置として実施されました)
5. 2018年度資格試験「広島会場」は西日本大豪雨の影響で中止となりました。
6. 2020年度資格試験は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止となりました。

(2) 認定ファシリティマネジャー資格 受験者/合格者の年度別推移



付 3. 教育研修事業及び通信教育事業

付3 教育研修事業及び通信教育事業

1. 初級FMスクールの実施

ファシリティマネジメントの初心者を対象としたセミナーを、「公式ガイド ファシリティマネジメント」に基づくテキストを用いてWEB配信にて計2回開催し、合計114名が受講した。

テーマ	FMの基本を学ぶ
開催日時	【第1回】2020年10月9日(金) 13時00分～17時00分 【第2回】2020年12月11日(金) 13時00分～17時00分
場所	東京：JFMA事務所 会議室よりライブ配信
講師	松岡 利昌（株式会社松岡総合研究所 代表取締役） 齋藤 敦子（コクヨ株式会社 ワークスタイル研究所 主幹研究員） 重綱 鉄哉（JFMA事業統括部長） 成田 一郎（JFMA専務理事）
受講料	会員3,000円 非会員5,000円
受講者	【第1回】37名 【第2回】77名

2. 日本ファシリティマネジメント大会（ファシリティマネジメントフォーラム2021）におけるセミナー

- (1) テーマ：「ニューノーマル時代の経営とFM」
一新サステナブル社会のまち・建築・ワークプレイス
- (2) 日程：フォーラムウィークとし2週にわたり開催した。
第1週：ライブ配信 2021年 2月17日(水)～2月19日(金)
第2週：オンデマンド配信 2021年 2月22日(月)～2月26日(金)
追加配信1：オンデマンド配信プログラムの再配信
2021年 2月27日(土)～3月1日(月)
追加配信2：ライブ配信コンテンツの一部をオンデマンド配信
2021年 3月22日(月)～3月28日(日)
- (3) 開催方法：専用スタジオよりライブ配信／事前収録動画をオンデマンド配信
- (4) 登録数：1,378名
- (5) 視聴者数：延べ9,908名
- (6) プログラム構成（下記参照、計68講座）
- | | |
|-------------------|-----------|
| ①基調講演 | 1講座 |
| ②特別講演 | 3講座 |
| ③JFMA賞受賞講演 | 5講座 |
| ④応募講演 | 26講座 |
| ⑤研究部会講演 | 18講座 |
| ⑥研究部会座談会 | 2講座 |
| ⑦シンポジウム | 3講座 |
| ⑧企画講演 | 9講座 |
| ⑨スポンサーによるFM関連情報紹介 | 1講座（34動画） |

(7)プログラム内容

FACILITY MANAGEMENT FORUM **Web** 2021

ライブ配信
プログラム

17日(水)		18日(木)		19日(金)	
基調講演・特別講演		JFMA賞		シンポジウム	
10:00 } 10:20 (20分)	【主催者挨拶】 山田 匡通 公益社団法人 日本ファシリティマネジメント協会 会長	10:00 } 10:20 (20分)	本日のプログラム紹介	10:00 } 10:20 (20分)	本日のプログラム紹介
インターミッション(20分)		インターミッション(20分)		インターミッション(20分)	
10:40 } 11:40 (60分)	【基調講演】 時代との対話:コロナ後の世界と ファシリティマネジメント 寺島 実郎 一般財団法人 日本総合研究所 会長 多摩大学 学長	10:40 } 11:25 (45分)	【最優秀FM賞】 (鶴澤賞) 聖路加国際病院・ 聖路加国際大学の ファシリティマネジメント実践 学校法人 聖路加国際大学	10:40 } 12:10 (90分)	【SDGs/ESG シンポジウム】 SDGsから考えるFMの未来 ●講演:パネリスト 山田 太雲 デロイトトーマツコンサルティング 夫馬 賢治 ニューラル 似内 志朗 JFMA理事・フェロー 調査研究委員長/ファシリティデザインラボ ●コーディネータ 齋藤 敦子 JFMAフェロー、広報委員長/コクヨ
お昼休み(60分)		お昼休み(60分)		お昼休み(60分)	
12:40 } 13:40 (60分)	【特別講演】 2050 脱炭素社会と ファシリティマネジメント 田辺 新一 早稲田大学 創造理工学部 建築学科 教授 公益社団法人 空気調和・衛生工学会 前会長 日本学術会議 会員	12:25 } 13:10 (45分)	【優秀FM賞】 (特別賞) 教職協働で学生を育てる、 大学における 新しいワークプレイス 学校法人 梅光学院	13:10 } 14:40 (90分)	【FMテックシンポジウム】 デジタル社会に対応した FMテック最新潮流 ●特別講演 松岡利昌 JFMA理事・フェロー 更新講習委員長/松岡総合研究所 ●ショートメッセージ 似内 志朗 JFMA理事・フェロー 調査研究委員長/ファシリティデザインラボ 榊原 渉 野村総合研究所 ●コーディネータ 板谷 敏正 JFMA理事・フェロー FM推進戦略委員長/プロ/バイデータバンク
インターミッション(30分)		インターミッション(30分)		インターミッション(30分)	
14:10 } 15:10 (60分)	【特別講演】 ニューノーマル時代の 働き方とワークプレイス 齋藤 敦子 JFMA特別研究員・フェロー JFMA広報委員長 コクヨ株式会社 ワークスタイルイノベーション部 主幹研究員	13:40 } 14:25 (45分)	【優秀FM賞】 物流倉庫の メガプレートオフィスと 成長するオフィスの取組み 株式会社 梓設計	インターミッション(30分)	
インターミッション(30分)		インターミッション(30分)		インターミッション(30分)	
15:40 } 16:40 (60分)	【特別講演】 イノベーションを起こす 場づくり 小堀 哲夫 建築家 株式会社小堀哲夫建築設計事務所 主宰 法政大学教授	14:55 } 15:40 (45分)	【優秀FM賞】 資生堂のワークプレイス戦略と FM部門の使命 「ワークスタイルコンセプトを 実現する取組」 株式会社 資生堂	15:10 } 16:40 (90分)	【インフラマネジメントシンポジウム】 高専生がアイデアを競うインフラの未来 「インフラテックコン2020」始動! ●パネリスト/オンライン参加 丸山 久一 インフラテックコン審査委員 委員長 長岡技術科学大学 名誉教授 中澤 祥二 インフラテックコン審査委員 副委員長 豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 教授 最優秀チーム 徳山工業高等専門学校 代表 優 秀チーム 木更津工業高等専門学校 代表 ●コーディネータ 中川 均 JFMA-インフラマネジメント研究部 部会長 インフラテックコン実行委員会 委員長 岩佐 宏一 JFMA-インフラマネジメント研究部 副部会長 インフラテックコン実行委員会 委員
インターミッション(30分)		インターミッション(30分)		インターミッション(30分)	

企画講演		配信期間 2月22日(月)～26日(金)		
	1	2	3	
A	公共FM 官庁施設における個別施設計画の策定について 植木 暁司 国土交通省大臣官房 官庁営繕部	公共FM まちづくり目線がかんがえる公共施設再編と広域連携 讃岐 亮 東京都立大学	プロジェクトマネジメント 発注者のための建築プロジェクトマネジメント超入門 発注者によるコストダウンと損書 池村 友浩 / 富田 裕 Literatus(リテラタス) / TMI法律事務所	
	ウェルビーイング コロナ危機はワーカーのウェルビーイングにどんな変化をもたらしたのか? 島津 明人 慶應義塾大学	インクルージョン バリアフリー —障害を価値に変える— 垣内 俊哉 ミライロ	PRIME SPONSOR 講演 ARCHIBUS BIM to FM 澤本 勇樹 アイスクエアード	
C	アジアFMサミット COVID-19とワークプレイス ●パネリスト ・中国: Zhang Limin 張利民(中国国家标准化管理委員会)委員 ・韓国: Mr. Myung Sik Lee KFMA(韓国FM協会)会長 ・タイ: Mr. Ek Buranakul TFMA(タイFM協会)会長 ●コーディネータ 松岡 利昌 JFMA理事・フェロー/松岡総合研究所	ワークスタイル ニューノーマル時代の働き方 —ワーケーションの魅力— ●パネリスト 坂野 悠司 和歌山県庁 波 友樹 オーエス ●コーディネータ 松岡 利昌 JFMA理事・フェロー/松岡総合研究所	スクールFM座談会 教職員の働き方をFM的に考える ●パネリスト 倉斗 綾子 千葉工業大学 上部 充敏 横浜市立日枝小学校 齋藤 敦子 JFMAフェロー・広報委員長/コクヨ ●コーディネータ 重網 鉄哉 JFMA統括部長	

応募講演		配信期間 2月22日(月)～26日(金)		
	1	2	3	
D	FM戦略 ニューノーマルにおける資産価値向上の秘訣 嘉門 隆史 / 喜多 輝香 山下PMC	FM戦略 FMサイクルの統括マネジメントと組織作り 白井 紗奈子 パーソルファシリティマネジメント	FM戦略 FM人材育成の仕組みと教育コンテンツの御紹介 北林 泰彰 / 松田 慎也 NTTファシリティーズ	
	FM戦略 フロンガス対策—2050年に向けて 山本 隆幸 日本冷媒・環境保全機構	FM戦略 ニューノーマル時代の次世代FM経営の萌芽 千葉 友範 EYストラテジー&コンサルティング	スポンサーPRコーナー FM関連情報紹介 FM最前線・各社の取組みを知る! スポンサー企業有志	
F	リスクマネジメント 近年の災害を踏まえたこれからのBCP対策 杉内 章浩 竹中工務店	リスクマネジメント 防疫対策を組み入れた清掃新基準 小畑 隆之 イオンデベロップ	リスクマネジメント 草刈り事故事例研究から考える安全対策 中道 岳 アイテック	
	ワークプレイス 10年対応できるオフィス空間とは 東 正展 サンニン	ワークプレイス 光がもたらすオフィスのウェルビーイング 石本 研 / 遠藤邦彦 ユニティ / 遠藤照明	ワークプレイス ニューノーマル時代の創造性と共創ワークの考察 小笠原 豊 イトーキ	
H	ワークプレイス ワークプレイス向け最新トレンド ジョンズ リチャード ベガプロジェクト	ワークプレイス ニューノーマル時代のワークプレイス戦略と三菱地所本社での取組 竹本 晋 三菱地所	ワークプレイス 新しい働き方を支えるワークプレイスを考える 丸山 玄 / 原 靖 大成建設	
	ワークプレイス POSTコロナにむけたワークプレイスのありかた 石崎 真弓 ザイマックス不動産総合研究所	ワークプレイス 高齢者施設における移乗用天井走行式リフトの導入メリット 瀬野 あゆみ オカムラ	ファシリティマネジャー入門 未来を拓くファシリティマネジャーの皆様へ先輩ファシリティマネジャーからのメッセージ ユーザー懇談会有志	
K	運営維持 スマートメンテナンスへの挑戦 西片 一成 TMES	運営維持 ニューノーマル時代の維持管理データの共有 下野 勝秀 / 重村 拓磨 住友セメントシステム開発	運営維持 DXを活用した業務展開について 熊谷 佑弥 日本メックス	
	運営維持 Facility Indoor Viewer®で実現する遠隔地からの保守メンテ業務の効率化 坂上 裕信 構造計画研究所	BIM BIMと連携するファシリティマネジメントのご紹介 柴田 英昭 / 千野 元就 FMシステム	BIM BIMを活用した不動産DX 光延 彰修 プロパティデータバンク	
M	公共FM よくわかる!公共建物の長寿命化vol.2 天神 良久 / 秋山 克己 東洋大学 / 日本メックス	公共FM まちづくり分析の新国富指標等による可視化 高藤 真澄 / 重富 賢太郎 NTTファシリティーズFMアシスト	公共FM スマート自治体を実現するペーパーレス 名久井 伸 エフエム・スタッフ	

JFMA 調査研究部会 配信期間 **2月22日(月)～26日(金)**

	1	2	3
N	FM戦略・企画研究部会 コロナ禍をチャンスに変えるFM戦略 高藤 真澄・吉田 淳・鎌田 佳子 NTTファシリティーズFMアシスト・ ザイマックス不動産総合研究所	FMプロジェクトマネジメント研究部会 企業オフィスの ニューノーマル対応動向 吉井 隆 NTTファシリティーズ	リスクマネジメント研究部会 Withコロナ時代の 災害対策本部テレワーク訓練のポイント 上倉 秀之 Facility Management 防災Lab
	エネルギー環境保全マネジメント研究部会 持続可能性からみる地球環境の行方 —新型コロナ禍の影響を踏まえて— 横山 健児 NTTファシリティーズ総合研究所	CREマネジメント研究部会 Withコロナ：New Normalの CREM戦略 大野 晃敬 東京オペラシティビル	人と場へのFM投資価値研究部会 ワークスタイルのパラダイムシフトと 「未来オフィス」の在り方 岡田 大士郎 HLD Lab
P	エネルギー環境保全マネジメント研究部会 持続可能性からみる地球環境の行方 —新型コロナ禍の影響を踏まえて— 横山 健児 NTTファシリティーズ総合研究所	CREマネジメント研究部会 Withコロナ：New Normalの CREM戦略 大野 晃敬 東京オペラシティビル	人と場へのFM投資価値研究部会 ワークスタイルのパラダイムシフトと 「未来オフィス」の在り方 岡田 大士郎 HLD Lab
	こことからだのウェルビーイング研究部会 コロナ危機はワーカーのウェルビーイングに どんな変化をもたらしたのか? 島津 明人 慶應義塾大学 これからのFMとウェルビーイング 高原・中沢・猪飼 × 島津 明人	インフラマネジメント研究部会 都市の自立性とレジリエンスを再考する —新型コロナウイルス感染から学ぶべきこと— 中川 均・大枝 真一・佐藤 寿延 ガイアート・木更津工業高等専門学校・国土交通省	キャンパスFM研究部会 「財務視点から考える 私立大学のFM」の出版 興津 利継 竹中工務店
Q	こことからだのウェルビーイング研究部会 コロナ危機はワーカーのウェルビーイングに どんな変化をもたらしたのか? 島津 明人 慶應義塾大学 これからのFMとウェルビーイング 高原・中沢・猪飼 × 島津 明人	インフラマネジメント研究部会 都市の自立性とレジリエンスを再考する —新型コロナウイルス感染から学ぶべきこと— 中川 均・大枝 真一・佐藤 寿延 ガイアート・木更津工業高等専門学校・国土交通省	キャンパスFM研究部会 「財務視点から考える 私立大学のFM」の出版 興津 利継 竹中工務店
	ヘルスケアFM研究部会 コロナで浮彫りになった、 病院の育て方とFMの役割 森 佐絵 清水建設	公共施設FM研究部会 板橋区の公共施設マネジメントの 取り組みについて —コロナ禍における個別施設計画のあり方— 千葉 亨二 板橋区	ユニバーサルデザイン研究部会 健康で安全な施設・運営のための 「WELLヘルスセーフティ評価」 似内 志朗 ファシリティデザインラボ
R	ヘルスケアFM研究部会 コロナで浮彫りになった、 病院の育て方とFMの役割 森 佐絵 清水建設	公共施設FM研究部会 板橋区の公共施設マネジメントの 取り組みについて —コロナ禍における個別施設計画のあり方— 千葉 亨二 板橋区	ユニバーサルデザイン研究部会 健康で安全な施設・運営のための 「WELLヘルスセーフティ評価」 似内 志朗 ファシリティデザインラボ
	運営維持手法研究部会 ファシリティマネジャーのための 運営維持入門/初心者編 吉瀬 茂 工学院大学	品質評価手法研究部会 コロナ禍の中ファシリティの品質を考える 野瀬 かおり ファシリティマネジメント研究所	FM財務評価手法研究部会 FM財務評価ハンドブック2020 大山 信一 三井住友建設
S	運営維持手法研究部会 ファシリティマネジャーのための 運営維持入門/初心者編 吉瀬 茂 工学院大学	品質評価手法研究部会 コロナ禍の中ファシリティの品質を考える 野瀬 かおり ファシリティマネジメント研究所	FM財務評価手法研究部会 FM財務評価ハンドブック2020 大山 信一 三井住友建設
	オフィスワークプレスの知的生産性研究部会 ニューノーマル時代の働き方と オフィスの再定義 —FMに出来ること— 齋藤 敦子 コクヨ	コンピュータ活用研究部会 コロナ下で実施:オフィスサーベイ データからの報告 森本 卓雄 アルファ・アソシエイツ	BIM・FM研究部会 FMにとってのBIM 現状と展望 猪里 孝司 大成建設
T	オフィスワークプレスの知的生産性研究部会 ニューノーマル時代の働き方と オフィスの再定義 —FMに出来ること— 齋藤 敦子 コクヨ	コンピュータ活用研究部会 コロナ下で実施:オフィスサーベイ データからの報告 森本 卓雄 アルファ・アソシエイツ	BIM・FM研究部会 FMにとってのBIM 現状と展望 猪里 孝司 大成建設

	1	2
U	座談会 1 ウィズコロナにおけるオフィスのリスク対策 コーディネータ 高原 良 TATAMI 上倉 秀之 Facility Management 防災Lab 森 佐絵 清水建設 野瀬 かおり ファシリティマネジメント総合研究所	座談会 2 アフターコロナのオフィス・ワークスタイル コーディネータ 似内 志朗 ファシリティデザインラボ 齋藤 敦子 コクヨ 金 英範 Hite & Co. 岡田 大士郎 HLD Lab

3. ウィークリーセミナー

FM最新話題に関するセミナーを、Web 配信にて開催した。

場 所	J FMA会議室より Web 配信		
参加費用	会員 1,000 円 非会員 2,000 円		
1	テ ー マ	「2023 年に向けた賃貸オフィス市場の動向と展望」	
	開 催 日	2021 年 1 月 20 日 (水)	受講者数 72 名
	講 師	三幸エステート株式会社 市場調査室長 チーフアナリスト 今関 豊和 氏	
2	テ ー マ	「POST コロナに向けたワークプレースの多様化」	
	開 催 日	2021 年 1 月 20 日 (水)	受講者数 72 名
	講 師	株式会社ザイマックス不動産総合研究所 主任研究員 石崎 真弓 氏	
3	テ ー マ	「職業的専門家の社会的地位について ~欧州大陸における職業的専門家を参考に して」	
	開 催 日	2021 年 1 月 27 日 (水)	参加者数 11 名
	講 師	帝京大学経済学部経営学科 教授 伍井 和夫 氏	
4	テ ー マ	「ファシリティマネジメントフォーラム 2021」 見どころガイド	
	開 催 日	2021 年 2 月 3 日 (水)	受講者数 67 名
	講 師	JFMA 専務理事 成田 一郎	

4. 専門分野特別セミナー

(1) J FMA の調査研究部会 (18 部会) の代表者より、『コロナに勝つ!』をテーマに、「コロナの課題は何か、コロナ禍の FM 対応は?」についてセミナー、座談会を「J FMA FM 秋の夜学校」として Web 配信により開催した。

1 日 2 部会の発表と部会による座談会を 2 回開催、受講者総数は 422 名。

場 所	J FMA 会議室より WEB 配信		
参加費用	会員 1,000 円 非会員 2,000 円		
1	テ ー マ	①健康で安全な施設・運営のための「WELL ヘルスセーフティ評価」 ②健康経営とワークプレース	
	開 催 日	2020 年 9 月 30 日 (水)	受講者数 21 名
	部 会 名	①ユニバーサルデザイン研究部会 ②こころとからだのウェルビーイング研究部会	
	講 師	①研究部会長 似内志朗氏 (ファシリティデザインラボ) ②研究部会長 高原 良氏 (株式会社 TATAMI)	
2	テ ー マ	①ニューノーマル時代の働き方とオフィスの再定義 FM に出来ること ②ワークスタイルのパラダイムシフトと「未来オフィス」の在り方	
	開 催 日	2020 年 10 月 7 日 (水)	受講者数 62 名
	部 会 名	①オフィス・ワークプレースの知的生産性研究部会 ②人と場への FM 投資価値研究部会	
	講 師	①研究部会長 齋藤敦子 (コクヨ株式会社) ②研究部会長 岡田大士郎氏 (株式会社 HLD lab)	
3	テ ー マ	①再生可能エネルギーを取巻く最新動向 ②大学のファシリティマネジャーの役割 - 改正私立学校法施行に向けて -	
	開 催 日	2020 年 10 月 14 日 (水)	受講者数 28 名
	部 会 名	①エネルギー環境保全マネジメント研究部会 ②キャンパス FM 研究部会	
	講 師	①研究部会長 横山健児氏 (株式会社 NTT ファシリティーズ総研) ②研究部会長 藤村達雄氏 (東京音楽大学)	

4	テ ー マ	①感染症対策リストと FMリスクマネジメントの見直し ②コロナで浮き彫りになった、病院の育て方とFMの役割		
	開 催 日	2020年10月21日(水)	受講者数	35名
	部 会 名	①リスクマネジメント研究部会 ②ヘルスケアFM研究部会		
	講 師	①研究部会長 上倉秀之氏 (Facility Management 防災 Lab) ②研究部会長 森 佐絵氏 (清水建設株式会社)		
5	テ ー マ	①With コロナ：New Normal のCREM戦略 ②FM財務評価ハンドブック2020		
	開 催 日	2020年10月28日(水)	受講者数	42名
	部 会 名	①CREマネジメント研究部会 ②FM財務評価手法研究部会		
	講 師	①研究部会長 大野晃敬氏 (東京オペラシティブル株式会社) ②研究部会長 大山信一氏 (三井住友建設株式会社)		
6	テ ー マ	①都市の自立性とレジリエンスを再考する(仮) -新型コロナウイルス感染から学ぶべきこと- ②コロナ禍における個別施設計画のあり方		
	開 催 日	2020年11月4日(水)	受講者数	40名
	部 会 名	①インフラマネジメント研究部会 ②公共施設FM研究部会		
	講 師	①研究部会長 中川均氏 (一般社団法人日本観光自動車道協会) ②研究部会員 千葉亨二氏 (板橋区 政策経営部 施設経営課)		
7	テ ー マ	①企業オフィスのニューノーマル対応動向 ②コロナ禍をチャンスに変えるFM戦略		
	開 催 日	2020年11月11日(水)	受講者数	51名
	部 会 名	①FMプロジェクトマネジメント研究部会 ②FM戦略企画研究部会		
	講 師	①研究部会長 吉井隆氏 (西日本電信電話株式会社) 他 ②研究部会長 高藤眞澄 (株式会社NTTファシリティーズFMアシスト)		
8	テ ー マ	①コロナ下で実施：オフィスサーベイデータからのご報告 ②コロナに勝つBIMはFMのDXのプラットフォーム		
	開 催 日	2020年11月18日(水)	受講者数	48名
	部 会 名	①コンピュータ活用研究部会 ②BIM・FM研究部会		
	講 師	①研究部会員 森本卓雄氏 (有限会社アルファアソシエツ) ②研究部会長 猪里孝司氏 (大成建設株式会社)		
9	テ ー マ	①コロナ禍に考えるファシリティの品質 ②ファシリティマネジャーのための 運営維持入門/初心者編		
	開 催 日	2020年11月25日(水)	受講者数	42名
	部 会 名	①品質評価手法研究部会 ②運営維持手法研究部会		
	講 師	①研究部会長 野瀬かおり氏 (ファシリティマネジメント総合研究所) ②研究部会長 吉瀬 茂氏 (パナソニックホーム株式会社)		
10	テ ー マ	座談会「ウィズコロナにおけるオフィスのリスク対策」		
	開 催 日	2020年12月2日(水)	受講者数	25名
	講 師	コーディネーター：高原良氏 (こころとからだのウェルビーイング研究部会) パネリスト：上倉秀之氏 (リスクマネジメント研究部会) 森佐絵氏 (ヘルスケア FM 研究部会) 野瀬かおり氏 (品質評価手法研究部会)		

	テ ー マ	座談会「アフターコロナのオフィス・ワークスタイル」		
	開 催 日	2020年12月9日(水)	受講者数	28名
11	講 師	コーディネーター：似内志朗氏（ユニバーサルデザイン研究部会） パネリスト：齋藤敦子氏（オフィス・ワークプレイスの知的生産性研究部会） 金英範氏（FMプロジェクトマネジメント研究部会） 岡田大士郎氏（人と場のFM投資価値研究部会）		

(2)初級ファシリティマネジメント財務評価セミナー

ファシリティマネジャーのための、実務に役立つFM財務評価手法についてビデオ・オン・デマンド方式にて開催。申込者数は94名。

1	第 1 章	FM財務評価の基礎知識
	講 師	大山 信一 氏（JFMA FM財務評価手法研究部会 部会長）
2	第 2 章	ファシリティコスト評価
	講 師	河合 義一 氏（JFMA FM財務評価手法研究部会 部会員）
3	第 3 章	施設資産評価
	講 師	河合 義一 氏（JFMA FM財務評価手法研究部会 部会員） 篠原 由紀 氏（JFMA FM財務評価手法研究部会 副部会長）
4	第 4 章	施設投資評価
	講 師	東 裕之 氏（JFMA FM財務評価手法研究部会 部会員）
5	第 5 章	ライフサイクルコスト評価
	講 師	篠原 由紀 氏（JFMA FM財務評価手法研究部会 副部会長）

付4. 表彰事業

付4 表彰事業

ファシリティマネジメントに関する優れた業績、及び功績のあった組織と個人を年1回表彰する。この表彰の制度を日本ファシリティマネジメント大賞（JFMA賞）と呼ぶ。

2006年に創設以来、2020年度2月までに15回実施し、すでに190件を表彰している。候補案件の募集は公募を原則とし、産官学から招いた有識者10名を審査委員とする審査委員会において、授賞を審議する。

1) 表彰の種類

a. 優秀ファシリティマネジメント賞（公募）

ファシリティマネジメント手法を取入れ、優れた成果を上げている活動を表彰する。このうち特に優れた活動を「最優秀賞（鶴澤賞）」とする。該当なしの場合もある。

総合的かつ継続的にファシリティマネジメントが定着し経営に貢献しているか、コアビジネスへの貢献はあるか、ファシリティの利用者への貢献はあるか、ファシリティマネジメントの推進体制（組織、財務管理、情報管理、標準と規程管理等）を整備したか、ファシリティマネジメントサイクル（PDCA）を回しているか、時代のニーズに対応しているか、新規性・独創性があるかの視点で審査。

b. 技術賞（公募）

ファシリティマネジメントに関する、新しい手法・技術の取組みを表彰する。

ファシリティマネジメントの手法・技術の開発・普及に貢献するものか、新規性・独創性はあるかの視点で審査。

c. 功績賞（公募）

ファシリティマネジメントに関する優れた論文（博士論文及び同等以上の論文）、出版、その他の活動を表彰する。

ファシリティマネジメントの推進、普及に貢献するものかの視点で審査。

d. 特別賞（非公募）

優秀ファシリティマネジメント賞・技術賞・功績賞の応募の中から、ファシリティマネジメントに関する優れた成果を上げ、特別に表彰すべきと認められる活動等について表彰する。

e. 特別功労賞（非公募）

ファシリティマネジメントの普及・拡大等に顕著な功績があった個人及び組織を表彰する。

f. 奨励賞（非公募）

優秀ファシリティマネジメント賞、技術賞、功績賞の応募の中から、今後の発展が期待されるものを表彰する。

2) 概 要

目	的	FMに関する優れた業績及び功績のあった組織と個人を表彰することにより、日本国内におけるFMの普及発展に資する。		
対	象	目的（日本国内におけるFMの普及・発展に資する）に合致した、日本に拠点を置く組織・個人とする。 ただし、海外の取組み・活動であっても、特段に、日本国内におけるFMの普及・発展に貢献したと認められる場合は、表彰の対象とすることができる。		
表 彰 の 種 類 (公 募)	優 秀 F M 賞	FM手法を取入れ、優れた成果を上げている活動を表彰する。 このうち特に優れた事例を「最優秀賞(鶴澤賞)」とする。		
	技 術 賞	FMに関する、新しい手法・技術の取組みを表彰する。		
	功 績 賞	FMに関する優れた論文、出版、その他の活動を表彰する。		
募 集 期 間	2020年8月1日(土)～9月30日(水)			
応 募 者 数	優秀FM賞:9件, 技術賞:0件, 功績賞:3件 計12件			
発 表	2020年12月17日(木)			
表 彰	2021年2月9日(火) コロナ感染症拡大のため中止			
後 援	経済産業省・国土交通省			
審 査 委 員	委 員 長	北川 正恭	早稲田大学 名誉教授	
	副 委 員 長	深尾 精一	東京都立大学 名誉教授	
	委 員	安達 功	株式会社日経BP 執行役員 日経BP 総合研究所 所長	
		鎌田 元康	東京大学 名誉教授	
		斎藤 秀幸	経済産業省 製造産業局 生活製品課 企画官	
		下野 博史	国土交通省大臣官房 官庁営繕部長	
		長澤 泰	東京大学 名誉教授・工学院大学 名誉教授 特任教授	
		村田 博文	株式会社財界研究所 代表取締役	
		米倉 誠一郎	法政大学大学院 教授・一橋大学 名誉教授	
成田 一郎	(公社)日本ファシリティマネジメント協会 専務理事			

3) 受賞者

賞の種類	タイトル	F M実践組織・個人	サービス提供者
最優秀 F M賞 (鵜澤賞)	聖路加国際病院・聖路加国際大学の ファシリティマネジメント実践	学校法人聖路加国際大学	(株)NTT ファシリティーズ
優秀F M賞 (特別賞)	教職協働で学生を育てる、 大学における新しいワークプレイス	学校法人梅光学院	(株)小堀哲夫建築設計事務所 清水建設(株) (株)インターオフィス 西日本電信電話(株) (株)ハイエレコン
優秀F M賞	物流倉庫のメガプレートオフィスと 成長するオフィスの取組み	株式会社梓設計	ソフトバンク(株) (株)ウフル (株)Phone Appli (株)JVC ケンウッド
優秀F M賞	資生堂のワークプレイス戦略とFM 部門の使命 ～ワークスタイルコンセプトを実現する取組～	株式会社資生堂	ジョーンズラングラサール(株)
優秀F M賞	ニューノーマルに向けた 分散型イノベーションオフィス	NECネットエスアイ株式会社	—
功績賞	国内におけるFM に関する研究・教育活動 及び海外への発信	加藤 彰一 (三重大学大学院)	—
奨励賞	小規模自治体における公共施設マネジメント (ふじさとモデル)	秋田県藤里町	サウスフィールド・マネジメント(株) 東京藝術大学 教授 ヨコジマコト (株)KEN アソシエイト

以上、計 13 件。

付 5. 調査研究事業

付5 調査研究事業

1. 調査研究部会活動

調査研究部会は次の3分野18部会である。以下のとおり活動報告を記す。

JFMA調査研究部会 2020年度 活動実績

1	【マネジメント 研究分野】 FM戦略・企画 研究部会	<p>■メインテーマ 都市・地域の持続可能性とFM戦略 ・サブテーマ：まちづくりによる持続可能性</p> <p>【研究目的】 2015年国連にて採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」において「G11：都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする、G7：エネルギー、G8：経済成長、G9：強靱なインフラ」の実現が掲げられているように、これからの都市・地域経営において「持続可能性」は極めて重要である。持続可能性の向上には何が必要なのか、その成功事例はどんなものか、成功に導いた取り組みとその効果はいかなるものか、などを明らかにすることにより、今後のまちづくり等への展開に資することを目指したい。当部会では持続可能性について「経済・社会・環境・文化・都市環境（構造）」の5大項目として整理したことを踏まえ、事例研究を通じた分析により「成功へのカギ」を見出したい。各地域のまちづくり事例やその取り組みによりSDGsや都市・地域の持続可能性の向上への効果を理解しやすくする可視化も検討する。 注）メインテーマについては2018年度から継続しているが、事例研究においては、主に地方の小都市を対象とする。</p> <p>■活動実績 原則、毎月1回の部会開催において、自主研究の発表と意見交換、研究テーマに関連した情報交換、外部専門家による講演の実施等を行い、部会としての研究テーマに対する検討を進めたが、上半期はコロナ禍による緊急事態宣言を受けて生活や活動状況が大きく変化した事態を踏まえて研究予定を一部変更した。部会ではWEB会議方式にて実施した。以下にその概要を示す。</p> <p>【部会開催】 第1回 5月28日（木）：意見交換 今後の進め方、コロナ禍によるFM課題を緊急テーマとして検討を進める。 第2回 6月18日（木）：意見交換 コロナ禍によるFM課題：感染対策（換気、災害時避難他） 第3回 7月15日（水）：講演・意見交換 講演：①戦闘領域化する宇宙－進化に対応するレジリエンス強化が必要 ②新型コロナウイルス感染症へのNATOの対応 － 同盟危機とレジリエンス（長島純氏：<u>住友商事グローバルリサーチ シニアアナリスト</u>） 意見交換：コロナ禍によるFM課題 - FM全体におけるコロナ禍の影響範囲、検討の進捗確認 第4回 7月31日（金）：部会員報告・コロナ禍によるFM課題のまとめ（報告） 部会員報告：働き方改革とオフィスの在り方に関するアンケート調査結果の概要報告 意見交換：コロナ禍によるFM課題のまとめ（報告）に関する意見交換 第5回 8月28日（金）：講演 講演：これからの日本の都市・地域・公共施設に起こるであろう18のこと+2 with / After Corona（金沢大学 西野辰哉教授） 第6回 9月18日（金）：部会員報告・意見交換 部会員報告：持続可能性の評価 - 新国富指標について、各地域の指標事例紹介 グリーン建築推進フォーラム第12回シンポジウム：緊急WEBシンポジウム-住宅・オフィス環境とコロナ：建築分野の新たな課題の概要報告</p>
---	---	---

第7回 10月22日(木): 講演・部会員報告
 講演: 二地域居住から見える地域の未来
 (馬場未織氏 南房総リパブリック理事長)
 部会員報告: 持続可能性評価ー地域経済分析システム<RESAS>による
 真庭市事例

第8回 11月26日(木) : 講演
 講演: 新国富指標の地域政策への活用による持続可能性の向上
 (岸上祐子氏 九州大学工学研究院都市システム工学講座学術研究員)

第9回 12月17日(木) : 部会員報告・意見交換
 部会員報告: 新国富指標等を活用した「まちづくりにおける持続可能性評価」
 の方法 - 「まちづくり分析の新国富指標等による可視化」のまとめと議論

第10回 2021年1月21日(木): 意見交換
 FMフォーラム発表の振り返り、今後の活動予定等

【FM推進戦略委員会にて報告】
 ・8月5日(水) FM推進戦略委員会にて、部会でまとめた「コロナ禍によるFM課題」の概要を報告。

【秋の夜学校にて講演】
 ・11月11日(水) 秋の夜学校にて、部会整理内容をもとに、「コロナ禍をチャンスに変えるFM戦略」のタイトルで、コロナ禍を機に安全安心なオフィスづくりや多様なワークスタイル・働き方改革の推進に向けたFM戦略検討の視点を提示した。

【FMフォーラム発表】
 ・12月21日(月) フォーラム講演収録「まちづくり分析の新国富指標等による可視化」
 発表概要: FM戦略企画研究部会では、まちづくり活動とその持続可能性への効果検討を行ってきた。その定量的評価や効果・特徴等の可視化が課題であったが、「持続可能な発展目標(SDGs)」の成果指標としても大きく期待されている新国富指標(九州大学・馬奈木教授が主導)等を活用することにより可視化が可能となった。
 新国富指標は、人的資本(教育・健康)・人工資本(社会整備資本等の累積)・自然資本(森林・農地・漁業の資本)の3資本のストック価値を評価するものである。私たちは、GDPなどの経済指標・フロー価値評価と新国富指標・ストック価値評価の両面から「まちづくりの持続可能性」分析を行うこととし、SDGs未来都市に選定された水俣市について持続可能性評価の事例研究を行ない、その概要を紹介した。

【今後の予定】
 ・SDGs未来都市から対象を選定して、事例研究を継続しながら、各地域の持続可能性に関する相対比較、持続可能性とまちづくりの政策・KPIとの整合性の確認、SDGs関連施策による持続可能性効果の確認など行いたい。

(以上)

2	<p>【マネジメント 研究分野】</p> <p>FMプロジェクト マネジメント 研究部会</p>	<p>■社会背景 少子高齢化、グローバル化、ICT の進化、価値観の多様化など経営者や働く人を取り巻く外部環境が著しく変化する中、「新たな価値創造」に向けて取り組むワークプレイスづくりが重要となり、そのための「FM プロジェクトマネジメント手法」にも進化が必要である。</p> <p>■メインテーマ SDGs の視点を取り入れた「新たな価値創造に向けたワークプレイス構築」をするために必要な FM プロジェクトマネジメント手法に関する調査研究を 2019 年度に引き続き行う。</p> <p>■活動実績 リアルオフィスにおける「エンゲージメント」と「働きがい」にフォーカスした FMPM スタイルに与える影響の整理をおこなった。</p> <p>○FM プロジェクトマネジメント手法に関する調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リアルオフィスの価値と創るポイント ・リアルオフィスがエンゲージメントを担っている企業事例調査 ・GPTW での「働きがい」とエンゲージメントの関係 ・コロナ禍での各企業のアンケート、賃料推移に関する調査研究 ・感染対策による各企業のニューノーマル対応動向の調査研究 <p>○その他の活動(WEB 会議で実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォーラム講演・夜学校等での養成普及 ・FM プロジェクトマネージャー同士の親睦、情報交換、相互扶助
---	--	--

3	<p>【マネジメント 研究分野】</p> <p>リスク マネジメント 研究部会</p>	<p>■メインテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Facility・DIG」の事例研究・普及浸透 ・近年の災害事例と立地・施設構造のリスクの検討 ・東京 2020 関する取り組み事例の研究 <p>■活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月 1 回の研究部会を実施。本年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、zoom による web 開催が大半となった。 ・新型コロナウイルスの感染拡大を受け「感染症対策チェックリスト」を検討し、秋の夜学校にて「感染症対策リストと FM リスクマネジメントの見直し」を発表。また、座談会に参加。 ・リスコン 2020 ブース展示コンテンツの協力 ・コロナ禍におけるテレワーク等の浸透を鑑み、リモート対策本部の訓練実績等を事例研究。災害対策本部の JFMAFORUM2021 にて「With コロナ時代のリモート対策本部のポイント」として発表。
---	---	---

4	<p>【マネジメント 研究分野】</p> <p>エネルギー環境保 全マネジメント 研究部会</p>	<p>■メインテーマ</p> <p>2019年度は企業の経営課題である脱炭素、循環型社会、職場環境に焦点を当てて調査研究を実施した。2020年度はさらに対象を拡大し、SDGs、環境都市、環境法の動向および CCS/CCU 等の最新技術に関する調査研究を行う。</p> <p>■活動実績</p> <p>コロナ禍が社会に与える影響と SDGs、環境都市、環境法の動向を踏まえて、新たな街づくりに関する調査研究を実施した。加えて、動き始めた電力市場の最新状況を調査すると共に、今後の在り方についての議論を行った。</p> <p>主な調査項目は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自治体主導の地域エネルギー事業が街にもたらす経済的価値 2. 街づくりにおける ICT の活用 3. 都市のセンシング技術 4. コロナ禍がもたらす社会的変化と環境対策への影響 5. 持続可能性を評価する指標と環境条約・国内法の推移 6. 東京ガス 豊洲スマートエネルギーセンター見学 7. 電力市場の動向 <p>(石炭火力の休廃止、初回容量市場の約定結果)</p> <p>上記の調査研究結果を秋の夜学校とファシリティマネジメントフォーラムで発表すると共に、報告書の作成を行った。</p>
---	---	---

5	<p>【マネジメント 研究分野】</p> <p>CREマネジメント 研究部会</p>	<p>■メインテーマ</p> <p>中長期的な視点に立脚して企業活動を支えるとともに、企業価値向上に貢献することを目的とした“企業不動産（CRE）マネジメント”に関する体系的な手法研究、並びに事例研究を行い、それらをもとに国内企業への普及・促進を図る</p> <p>■活動実績</p> <p>①CRE マネジメントに関する最新事例調査 上記メインテーマにて運営する予定であったが、コロナ禍による CRE マネジメントの研究に特化した部会運営となった。 以下、国内外の企業の事例を研究。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ザイマックス不動産研究所 「新柄コロナで働き方やオフィスがどうなるか？」 ・ JLL 「New Normal の CREM 戦略」 ・ ニッセイ基礎研 「CRE マネジメントで組織とワーカーを活性化するノウハウについて」等のテーマについて部会にて研究 <p>②秋の夜学校 JLL「「New Normal の CREM 戦略」を初心向け時アレンジし、分かりやすく解説。</p>
---	--	--

6	<p>【マネジメント 研究分野】</p> <p>人と場へのFM投資 価値研究部会</p>	<p>■メインテーマ</p> <p>FM 投資価値評価を、人間の「感性」や「心情」等の心理的視点、また、「働き心地」や「快適性」等身体的視点での定性評価に焦点を当て、FM 投資意義とそのウェルネス効果等を研究するもの。</p> <p>■活動実績</p> <p>「働く」と「ワークプレイス」の再定義を試行。</p> <p>「人」と「場」の相関性要素を、環境、行動、意識の各要素に分解し、価値創造につながってゆくメカニズムを研究。</p> <p>FM Tech の最新情報を収集し、それらのテックがいかにワークプレイスの価値を向上させてゆけるものかの仮設定を行い研究。</p> <p>イトーキの「XORK」を視察し、最先端のワークプレイスの在り方を学ぶ機会を得た。</p> <p>大林組の実証研究成果を共有。ゼネコンが取り組む「健康経営」とウェル・ビルディングの事例を学習。</p> <p>Forum では「人と場」FM が創出するウェルネス組織経営を以下のテーマで発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「人と場」の価値を創造するウェルネス FM ・ ウェル・ビーイングマネジメント ・ 働く人々の「ウェル」と組織の「ウェル」の調和 ・ 人への「感性アプローチ」と環境づくり ・ FM 投資効果測定の実践法と「可視化」への挑戦 ・ 仮説ストーリーテリング&ロジック法
---	--	---

7	<p>【マネジメント 研究分野】</p> <p>こころとからだの ウェルビーイング 調査研究部会</p>	<p>■<u>メインテーマ</u></p> <p>「ウェルビーイングを実現する FM 実践手法の確立」 働く人のウェルビーイングに関連する FM の知識や情報を幅広く収集し、それらを FMer 向けの実践ノウハウとして体系化して発信を行う。</p> <p>■<u>活動実績</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究会の開催 研究会を月 1 回の頻度で開催。メンバー間で調査の手法、対象についての議論を行い、調査報告、進捗の共有を行った。 2. ヒアリング調査 ウェルビーイングに働く人（計 4 名）へのワークスタイルやワークプレイス環境についてのヒアリング調査を実施。 3. 研究成果の発表 2019 年 2 月のファシリティマネジメントフォーラムにて、調査の計画、手法、事例について第一報として報告を行った
---	--	---

8	<p>【マネジメント 研究分野】</p> <p>インフラ マネジメント 研究部会</p>	<p>■メインテーマ</p> <p>官民連携を基本とするインフラマネジメント手法の導入を推進し地方自治体ヒアリング、地元学術団体との連携によりインフラマネジャーの育成、及び ISO の活用・定着のための調査研究活動を行う。また協会主催のファシリティマネジャー育成研修に参加し FM とインフラマネジメントとの融合をめざす。</p> <p>■活動実績（各計画項目ごと）</p> <p>①「インフラ点検のすゝめ」を軸とする出前講座の展開、昨年発刊した同書籍をベースにした地方自治体職員に対する出前講座を実施する。（教本作成分科会）</p> <p>実績報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の拡大により活動することができなかった。 <p>②高専生を対象とする「インフラマネジメント技術競技会（仮称）」を調査研究委員会のタスクフォースとして年間を通じ企画・実施する。</p> <p>なお公共 FM 部会との連携を視野に入れる。（啓発セミナー分科会）</p> <p>実績報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立高専機構の後援を得て、NPO 法人シビル NPO 連携プラットフォーム（CNCP）の公認事業として実施した。 ・参加校 17 校（建設系 36 校の約半数）30 チーム、協賛企業 50 社以上が参加しアイデアを競った。 ・その概要はファシリティマネジメントフォーラム 2021 にて全国配信した。 ・来年度も実施予定。 <p>③FM グローバル展開の一環として ISO55001（アセットマネジメント）と ISO41001 との比較研究と適応事例の広報活動を実施する。（ISO分科会）</p> <p>実績報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本アセットマネジメント協会（JAAM）との勉強会を実施。 <p>④国交省「インフラメンテナンス国民会議」との連携した各種活動に対する参加ならびに実行委員の派遣。市民参画、自治体支援、革新的技術、人材育成、海外展開の各フォーラムと連携する。</p> <p>実績報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会メンバー4名（鈴木、大石、岩佐、田村）が国民会議企画委員会委員として活動中。 <p>その他の実績報告としては東工大岩波教授に当部会顧問となっただき今後の提言活動の中心を形成する予定。</p>
---	--	---

9	<p>【施設事例研究分野】</p> <p>キャンパスFM 研究部会</p>	<p>■<u>メインテーマ</u></p> <p>大学は、近年、人口減少期問題、ガバナンス・マネジメントの再構築、教育の質向上の実現、生き残り等、戦略的な経営が求められている。 キャンパスFMはこれらことを踏まえ、長寿命化、省エネ、安全確保、合理化・効率化等を実践していく必要がある。 このため当部会では、FMの視点から求められるキャンパスの姿を再度整理し、今後、2008年発行のガイドブックを見直してゆく。</p> <p>■<u>活動実績</u></p> <p>1. 学校法人のFMの財務管理 私学FM財務勉強会において整理してきたことを、部会において協議し冊子発行に向けて検討を行ってきた。次年度6月発行を目指している。</p> <p>2. 秋の夜学校 昨年度に続き、キャンパスFMを始めようとする大学のために、まず一步を踏み出すための取組として「大学のファシリティマネジャーの役割ー改正私立学校法施行に向けてー」を2019年10月9日に発表した。</p> <p>3. フォーラム2020 私学FM財務勉強会の整理にあわせ、2020年施行の改正私立学校法を踏まえ「私立大学の財務支援におけるFMの在り方ー改正私立学校法施行を踏まえてー」を2020年2月21日に発表した。</p>
---	---	---

<p>10</p>	<p>【施設事例研究分野】 ヘルスケアFM 研究部会</p>	<p>■メインテーマ 健康・医療・福祉に関わる施設経営戦略を包括的に扱うヘルスケアFMの導入・普及</p> <p>■活動実績 他部会と同じく今年は手さぐりでのオンライン部会となったが、特に遠方の部会員には有難かった。一方で研究活動は画面越しのワーキングや討議の進め方がわからず停滞しているが、来年度は研究を再開したいという声が強 く、3月から徐々に始めた。</p> <p>① 定例部会 7回開催 4月5月はコロナのため中止となったが、他部会のTV会議開催を聞き、当部会も開始。遠方からの参加率が上がった。 【定例のうち、外部講師セミナー】 ・12/15「給食システムのリ・エンジニアリング」 窪田伸氏（一社ヘルスケアフードサービスシステム協会代表理事） 牧内早苗氏（株式会社ミールシステム 代表取締役副社長）</p> <p>② 秋の夜学校 & JFMAフォーラム 「病院の育て方とFMの役割」ウェビナー 部会長 森佐絵</p> <p>③ フリンジサービス勉強会 ヘルスケア部会の分科会として、JFMA 会員以外も参加する勉強会のため N T T 東日本関東病院で開催していたがTV会議に移行し参加率が上がった。ヘルスケア部会員 和泉隆・加藤哲夫</p> <p>④ 外部講演 ・11/12-HOSPEX JAPAN2020（病院設備機器展）@東京ビッグサイト J F M A & 医業経営コンサルタント協会共催セミナー 「海外事例から学ぶ日本の行政・医療のデジタル化のゆくえ」 座長 ヘルスケア部会副会長 平沼昌弘 講師 N E C デジタルガバメント推進本部 松見隆子氏</p> <p>⑤ 医療関連団体との連携活動 上記活動を通して関連団体との連携を維持している ・日本医業経営コンサルタント協会 機関紙春号（4月発行）にJFMAフォーラム記事掲載予定 ・日本医療福祉設備学会 認定ホスピタルエンジニア講習テキスト（9月）に 病院FMについて執筆予定</p>
-----------	--	---

11	<p>【施設事例研究分野】</p> <p>公共施設FM 研究部会</p>	<p>■メインテーマ</p> <p>2020年度は、各省庁が、全国の自治体宛に発出している個別施設計画策定の最終年となるので、実りある計画とするための調査、研究を重点的に行うとともに、公共資産の最適な施設維持管理運営、品質向上へ向けて、公共FM推進へ取り組む。</p> <p>■活動実績</p> <p>各省庁が、全国の自治体宛に発出した個別施設計画策定の最終年であったが、コロナ禍で定例会が一時見合わせとなり、どうなるかと思案したが、オンライン形式で、講師の情報提供を題材に、研修会形式を踏襲し、真摯な議論が交わされ部会員の研鑽が積めた。</p> <p>また、恒例の夜学校及びJFMAフォーラムでは、個別施設計画策定の先進事例を吸収し、今後の展開手法を学んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月：定例会 <ul style="list-style-type: none"> 「東京23区が抱える公共FM～板橋区のFM実践」 講師：千葉亨二 氏（板橋区教育委員会教育施設担当課長） ・9月：定例会 <ul style="list-style-type: none"> 「市民協働で進める公共資産のマネジメントと空間づくり ～市民ワークショップの経験を踏まえて」 講師：讃岐 亮 氏（東京都立大学助教） ・10月：定例会 <ul style="list-style-type: none"> 「習志野市旧庁舎跡地活用に関する検討について」 講師：吉田恵美 氏（吉田恵美公認会計士事務所長） ・11月：夜学校 <ul style="list-style-type: none"> 「板橋区の公共施設マネジメントの取り組みについて ～コロナ禍における個別施設計画のあり方」 講師：千葉亨二 氏（板橋区教育委員会教育施設担当課長） ・11月：定例会 <ul style="list-style-type: none"> 「官庁施設における個別施設計画の策定について」 講師：植木暁司 氏（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課長） (サウスフィールド・マネジメント) ・12月：定例会 <ul style="list-style-type: none"> 「学校FMのこれから」 講師：飯島健一 氏（小平市教育部学務課長） ・1月：定例会 <ul style="list-style-type: none"> 「公共施設のしまい方～まちづくりのための自治体資産戦略」 講師：堤 洋樹 氏（前橋工科大学工学部建築学科准教授） ・2月：JFMAフォーラム <ul style="list-style-type: none"> 「板橋区の公共施設マネジメントの取り組みについて ～コロナ禍における個別施設計画のあり方」 講師：千葉亨二 氏（板橋区教育委員会教育施設担当課長）
----	--	---

<p>12</p>	<p>【施設事例研究分野】 ユニバーサルデザイン 研究部会</p>	<p>■メインテーマ</p> <p>2020年度はコロナ禍の影響もあり、当初の方針を変更し、以下のテーマで活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 当事者（ユーザー）の視点の深化 <ul style="list-style-type: none"> ・UDナイトトーク ・リモート形式 2) ユニバーサルデザイン関連普及促進 <ul style="list-style-type: none"> ・Wikipedia 記述改定への参画 ・感染症等対策の施設評価手法の紹介 <p>■活動実績</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) UDナイトトーク（全6回） <ul style="list-style-type: none"> 障がいを持つ当事者（メンバーである森山政与志氏）がトークと対談を交え本年度後期6回行った。 生活環境・企画設計工房との共催形式。 ・トークと対談 with ゲスト成田一郎（JFMA）9月23日 ・トークと鼎談 with 坂本崇博（コクヨ）、木原隆明（専門学校非常勤講師）、仲田裕紀子（UD研究部会）10月21日 ・トークと対談 with 古阪幸代（WFM）11月25日 ・トークと鼎談 with 黒木正郎（建築家）、松崎駿（一級建築士）、児玉達朗（UD研究部会）12月16日 ・トークと対談 with 星川安之（共用品推進機構）1月20日 ・トークと鼎談 with 波多野弘和（一級建築士）、石川由佳子（義肢装具士）、塩川完也（UD研究部会）2月17日 2) Wikipedia における「ユニバーサルデザイン」記述改定への参画 <ul style="list-style-type: none"> ・従来の記述内容が偏ったものであったため、川内美彦氏（東洋大）、関根千佳氏（同志社大）、古瀬敏氏（静岡県芸工大）らと共同チームで執筆。当部会はワークプレイスのUDを担当。 3) FM 秋の夜学校及びFMフォーラム <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍下における健康に配慮した施設評価手法「WELL Health-safety Rating」等の情報提供 4) 部会ミーティング <ul style="list-style-type: none"> ・新体制（年代若返り等）について議論。結論は出ていない。
-----------	---	--

13	<p>【固有技術研究分野】</p> <p>運営維持手法研究部会</p>	<p>■メインテーマ</p> <p>～『納得感のもてる最良の運営維持』を目指して～</p> <p>ユーザーの視点に立ったファシリティ運営維持業務と、その評価に関するあり方を探る。</p> <p>「活動方針」 ～運営維持の視点で『きっかけづくり』～</p> <p>「活動理念」 ～人と社会との関わりを良好に保つために～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設そのものの性能と室内環境（執務空間・生活空間） ・施設を利用する人たちの満足度（利用者満足度） ・地域や地球環境への対応（配慮） <p>これらにスコープをあて、ユーザーの視点に立ったファシリティ運営維持業務とその評価に関するあり方について、調査研究活動を行う。</p> <p>■活動実績</p> <p>① 今年度の取り組みテーマは、昨年度に引き続き「ライフサイクルマネジメント/LCM」（その2）</p> <p>～取組へのヒント～と題して、部会の理念を基にした研究活動からLCM取り組み（考え方）のきっかけを探った。</p> <p>※今年度は、コロナ禍での対応となり、部会研究活動は活動ワーキングに分科会（清掃・設備・警備）を設置し、webによる会合を各分科会で3～4回開催して部会活動を行った。</p> <p>※また、年末には部会全体の会合を開き、各分科会から取組の成果報告を部会員へ行なった。</p> <p>② 部会セミナー等を活用した、専門家や実務経験者の方々から取り組みのヒント（考え方）を探り出す。</p> <p>※今年度は、コロナ禍で専門家や実務経験者を招聘して意見交換を行うことができなかった。</p> <p>※しかし、分科会では、一部の関係する方々と、意見交換等を行った。</p> <p>※また、ウイークリーセミナー（11/25 秋の夜学校）では、「ファシリティマネジャーの運営維持入門」と題して、Life Cycle Managementの取組み方(考え方)について」を昨年引続きレクチャーを行った。</p>
----	-------------------------------------	---

14	<p>【固有技術研究分野】</p> <p>品質評価手法研究部会</p>	<p>■メインテーマ</p> <p>これから先の世における「ファシリティ品質評価項目」を考える</p> <p>当部会では、ファシリティの品質とは何かについて探求し、品質を評価するための項目を検討してきた。現在は、安全・安心、快適性・機能性、耐用性・保全性、環境保全性、社会性・品格性、多様性、心理配慮性という7つの評価軸で評価項目を整理している。</p> <p>それらの評価軸やそこに含まれる項目が今後どのように変化していくかを検討・整理し、これから先の時代におけるファシリティ品質のあり方や品質評価の姿を考える。</p> <p>■活動実績</p> <p>1. メインテーマのステップ1について、1989年～2019年（平成の30年間）の社会全般のできごとを振り返りから、欧米の考え方であるFMを「日本人らしいファシリティ」、「日本人らしいFM」という切り口で検討した。</p> <p>2. パンデミックの中で各企業がどのような対応をとって事業を継続しているか、部会員各自の体験を整理し「コロナに勝つ！JFMAからのメッセージ」の中で報告した。</p> <p>3. これまで年に一度の合宿を含む施設見学を行い事例等に関する意見交換を活発に行ってファシリティやFMに関する理解を深める機会としていた。しかし2020年は例年のような合宿や施設見学が困難であったため8月にオンライン合宿を開催し、各自が興味、関心を持ったFM品質に関わる事項についてプレゼンテーションを行って意見交換した。</p>
----	-------------------------------------	---

15	<p>【固有技術研究分野】</p> <p>FM財務評価手法 研究部会</p>	<p>■メインテーマ</p> <p>FM財務評価の更なる普及を図る (理解のし易さを追求し、広範な浸透を目指す)</p> <p>■活動実績</p> <p>【全般】新型コロナウイルス感染症の影響により、部会活動は原則オンラインで開催することとなった。</p> <p>①「FM財務評価ハンドブック2020」によるFM財務評価セミナー(Online)を「ビデオ・オン・デマンド方式」によるオンライン配信方式で実施した(申込者94名)。 「FM秋の夜学校」で「FM財務評価ハンドブック2020」の概要を紹介した。</p> <p>②リース会計基準の変更等財務関連情報の収集・研究 部会員(篠原様)から「最近のオフィスマーケットの動向」についてご紹介いただいた(2020年7月、11月)。</p> <p>③その他、FM財務関連情報の収集・研究 学校法人会計に基づくFM財務評価の可能性について検討した。 (2020年5月、6月、12月) 部会員(坂田様)から「コニカミノルタにおけるFM取り組み事例」についてご紹介いただいた(2021年3月)。</p>
----	--	--

16	<p>【固有技術研究分野】</p> <p>オフィス・ワークプレスの知的生産性研究部会</p>	<p>■メインテーマ</p> <p>労働集約から知識創造による価値創造社会へと移行し、業種や規模に関わらず、働く人と組織の知的生産性は経営者にとって重要なテーマである。知的生産性向上を目指して、ワークプレスをリニューアルする企業が増える一方、その具体的な施策に対する成果を測ることが難しい。本研究部会では、知的生産性を切り口としたワークプレスの研究に特化し、様々な研究機関で進められているエビデンスなども収集しながら、ワークプレスの進化を支えるマネジメントツールの開発を行う。同時に、年々、進化する最先端のワークプレイスについても調査やヒアリング等を実施し、次世代のワークプレイスの要素抽出も行っていく。</p> <p>■活動実績</p> <p>コロナ禍によりワークプレイスの存在意義が問われる 1 年であった。定例会はオンライン開催とし、前半は部会員が所属する企業や組織の出勤状況や働き方に関する状況共有を行い、With/After コロナにおいて働き方とワークプレイスがどう変わっていくか議論した。後半は SOF モデルを使ってコロナ禍におけるアンケート調査を実施しオフィス学会で発表、意見を頂いた。具体的な詳細は以下である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定例会の開催 <p>オンライン開催となったため全国からの参加が可能になった。コロナ禍のリアルな状況や悩みを遠隔地間で共有したことで、With/After コロナの課題や、これからの活動方針について活発な意見を交わすことができた。</p> 2. 分科会の開催 <p>SOF モデルを活用したコロナ禍における、働き方・組織・FM の重要度と達成度に関するアンケート調査を実施した。また、ベンチマーク蓄積のためのアンケートシステムを構築し、2 社のデータ収集と分析を進めた(1 社は 2021 年度実施のため準備)。データ活用等の契約関係の整備も行った。</p> 3. ガイドブックの発行 <p>コロナ禍によりワークプレスの再定義が必須となり、ガイドブックは次年度に繰り越しとなった(変化に即した実用性の高いものを目指す)。</p> 4. アカデミア(学会等)との連携 <p>コロナ禍における、働き方・組織・FM の重要度と達成度に関するアンケート調査の分析結果をオフィス学会で発表した。コロナ禍においても知的生産性の場としてのワークプレスの価値が変わらないことを確認した。</p>
----	--	--

17	<p>【固有技術研究分野】 コンピューター活用 研究部会</p>	<p>■メインテーマ</p> <p>「FM 領域で係わる ICT 新技術の調査」 「CAFМ システムの活用事例の調査」 「Eco・Lcc 削減を可能にする ICT 新技術の調査」 「ロボット、AI の最新事例調査」</p> <p>■活動実績</p> <p>【部会、勉強会】Web 会議にて開催</p> <p>5 月：「Web 会議システムの体験と利用検討会」 利用ソフト：Zoom、MS Teams、Google Meet の比較分析</p> <p>6 月：「CM 方式の紹介と技術の沿革」</p> <p>9 月：「IoT+FM+コンサル」</p> <p>10 月：「施設管理の DX と BPR」</p> <p>11 月：「次世代ウェアラブル型計測デバイス、混雑状況把握・案内システム」</p> <p>12 月：「よくわかる 公共建物の長寿命化 Vol.2」</p> <p>2 月：JFMA フォーラム「コロナ禍で実施：オフィスサーベイデータからの報告」</p> <p>3 月：「大手建築設計事務所時代に意識した FM と、現場に転職して感じる FM」</p>
----	--	--

18	<p>【固有技術研究分野】 BIM・FM研究部会</p>	<p>■メインテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ファシリティマネジメントのための BIM 活用ガイドライン」の普及と展開 ・BIM と FM 連携による BIM 及び FM 双方の高度化 <p>■活動実績</p> <p>研究部会を月 1 回開催し、ファシリティマネジメントでの BIM 活用事例を紹介する事例集の構成および書式について議論した。今後、事例を募集し事例集として発行を予定している。また 2019 年に出版した「ファシリティマネジメントのための BIM ガイドライン」に掲載した BIM 実行計画のひな形やテンプレート集の企画について検討した。</p> <p>2019 年 6 月に発足した国土交通省の「建築 BIM 推進会議」とその下部の「環境整備部会」「環境整備 WG」に JFMA からの委員として参加した。部会および WG での議論を研究部会内で共有するとともに、意見聴取を行った。</p>
----	----------------------------------	---

2. 海外ファシリティマネジメント調査団

海外におけるファシリティマネジメント先進事例を調査・研究すると共に、海外のファシリティマネジメント関係者と交流しネットワークを構築することにより、わが国のファシリティマネジメントの発展に資する目的で、毎年海外に FM 視察調査団を派遣している。

しかし、2020 年度は COVID-19 が日本を含め世界で感染拡大しており、渡航ができない状況のため、海外 FM 視察調査団の派遣を中止した。

付6. I S O関連事業及び

I S Oの日本工業規格(J I S)関連事業

付6 ISO関連事業

1. ファシリティマネジメント国際標準化（ISO）への対応

(1) ファシリティマネジメント国際規格に関する情報収集

2020年6月にオンラインで開催されたISO/TC267FM国際全体会議に参加し、FM国際標準化活動に対する情報収集を行った。

2020年11月にオンラインで開催されたISO/TC267FM国際全体会議に参加し、FM国際標準化活動に対する情報収集を行った。

2021年1月～3月、オンラインで開催されたISO 41017 パンデミック対策のWG7会議に参加し、情報収集を行った。

(2) EuroFMによる欧州FMネットワークに関して情報収集

日本のEuroFMアンバサダーと、欧州各国やアジアのEuroFMアンバサダー間で情報交換を実施した。

(3) ISO 41001のJIS化作業

FM ISO規格ISO 41001に対応するFM JIS規格：JIS Q 41001を作成するため、FM JIS原案作成委員会を設立し、委員会及び分科会を運営した。分科会でFM JIS原案の素案を作成し、委員会で素案に対して審議を行った。

2020年6月：第3回分科会
2020年6月：第4回分科会
2020年7月：第2回委員会
2020年8月：パブリックコメント募集
2020年8月：第5回分科会
2020年9月：第3回委員会
2020年9月：第6回分科会
2020年10月：第4回委員会（最終回）

第4回委員会でJIS Q 41001の本文、附属書、解説が承認された。

2020年10月末、JIS Q 41001素案を日本規格協会（JSA）へ納品した。

その後2021年3月まで、JSA及び経産省でJIS Q 41001について審査を行った。

付7. 広報事業

付7 広報事業

1. ファシリティマネジメントに関する広報事業

ファシリティマネジメントに関する広報を目的として、ホームページの開設運用、メールマガジンの定期的な発行、機関誌の定期的な発行、新聞雑誌等マスコミへの広告、ファシリティマネジメントフォーラムを活用した情報発信と展示会及び地方自治体等公共機関への訪問、広報等を行った。

2. 機関誌「JFMAジャーナル」の定期的な発行

「JFMAジャーナル」は、FMに関する最新情報の特集形式で取り上げ、FMの本質と時代性を反映させると共に、JFMAからのメッセージを発信している。特にFM知識・情報の集積と保存性を考慮すると共に、内容の読み易さ、理解のし易さ、美しさを考慮したデザインを目指している。

今期は春号（4月）、夏号（7月）、秋号（10月）及び冬号（1月）の年4回季刊誌を発行し、会員に頒布した。

春号 No.198 (3,400部)

特集 ファシリティマネジメントフォーラム2020 特集号
第14回 日本ファシリティマネジメント大会

夏号 No.199 (3,700部)

特集 新型コロナウイルス感染症にいかに対処したか
どう備えるか FMの観点から

秋号 No.200 (3,000部)

特集 コロナ禍における働き方の変化とこれから
～FMに求められていること～

冬号 No.201 (3,300部)

特集 SDGsから考えるFMの未来
～ニューノーマル社会の先にあるもの～

3. Web版「JFMAジャーナル・オンライン」の運用

紙ベースの機関紙「JFMAジャーナル」が年4回、季刊で発行するが、JFMAからの周知事項、会員情報等をタイムリーに知らせる必要がある。そのために、インターネットを利用し、毎月Web上にタイムリーな情報を掲載する「JFMAジャーナル・ONLINE」を運用し、「JFMAジャーナル」のトピックスを中心に紹介するとともに、コラム「FM玉手箱」やセミナー報告などタイムリーな情報の提供を行った。

4. ホームページの運用

わが国を代表するファシリティマネジメント関連組織として、JFMAホームページは、2020年度末実績で年間320万回のアクセスのあるウェブサイトとなっている。ファシリティマネジメントに関する情報、JFMAの主要な事業や行事に関する情報、調査研究成果に関する情報等の発信、各種提言内容の周知等を行うと共に、JFMAが蓄積した各種のファシリティマネジメント関連情報の検索、会員相互の情報交換の場として活用されている。

今期も引き続き、タイムリーな改定を行い、常に新鮮な情報の提供を行った。ホームページの主な構成は、次のとおりである。

(1) ファシリティマネジメント(FM)とは

- ① FMとはどのようなものか
- ② FMの必要性

- ③ FMの効果
- (2) 協会概要
 - ① 事業概要
 - ② 基本情報及び組織
 - ③ 定款・公開資料
- (3) JFMA会員
 - ① 制度のご案内と特典
 - ② 会員一覧
 - ③ 入会お申込み
 - ④ 会員登録情報の更改
- (4) 認定ファシリティマネジャー資格
 - ① 概要
 - ② 資格者データ
 - ③ 資格試験
 - ④ 新規資格登録申請
 - ⑤ 登録資格更新
 - ⑥ IFMA／CFM相互認証制度
 - ⑦ 資格登録情報の変更
 - ⑧ 求人情報
- (5) セミナー・報告会
 - ① ウィークリーセミナー
 - ・参加申込
 - ・開催記録
 - ② FM上級セミナー
 - ③ FM初級スクール
 - ④ 専門分野別セミナー（調査研究部会公開セミナー、FM財務評価セミナー）
 - ⑤ 各種企画セミナー
- (6) 調査研究
 - ① 調査研究
 - ② 各研究部会・参加申込
- (7) ファシリティマネジメントフォーラム
 - ① ご案内と開催記録
- (8) JFMA賞
 - ① 第15回日本ファシリティマネジメント大賞（JFMA賞）受賞者発表
 - ② 応募要項
 - ③ 過去の日本ファシリティマネジメント大賞（JFMA賞）の受賞者
- (9) 書籍・報告書
 - ① 書籍紹介
 - ② ご購入お申込み
- (10) 機関誌
 - ① 新着情報
 - ② JFMA JOURNAL（ジャフマジャーナル）公開版 最新号
 - ③ バックナンバー
- (11) メールマガジン
 - ① ご案内
 - ② メンバー登録と配信先変更届け等
- (12) お問い合わせ
- (13) 事務局案内地図
- (14) サイトマップ

5. メールマガジンの定期的な発行

ファシリティマネジメントに関する最新情報を、一般向けメールマガジン「JFMAIL」として月平均2回、約6,000人の登録者へ合計23回発信した。

公共機関関係向けのメールマガジン「公共FM推進ネット」は毎月、264団体の地方自治体等登録者約264人へ合計12回発信した。

年間の読者数は、「JFMAIL」が延べ約138,000人、「公共FM推進ネット」が延べ約3,200

人と推定できる。

案内する情報の詳細は、JFMAホームページにより掲載されているが、メールマガジンでは最新の内容を簡潔に案内することにより、価値ある情報に利用者がアクセスしやすいように配慮している。

6. 「ファシリティマネジメントフォーラム 2021」のスポンサー募集とPR活動

ファシリティマネジメントフォーラム開催にあたり、会員企業を対象にスポンサー（プライム、ダイヤモンド、ゴールド、シルバー）の募集を行った。また、非会員企業には弊社ホームページやメールマガジン（JFMAIL）、ダイレクトメール、人脈等を活用して募集を行った。

その結果 2021 年度はプライムスポンサー1社、ダイヤモンドスポンサー14社、ゴールドスポンサー21社、シルバースポンサー18社の54社にお引き受け頂いた。今年は Web 開催のため、展示会・企業PRプレゼン・企業紹介カタログコーナーを中止としたため、代替対策として企業PRビデオの放映、企業PRカタログの掲載を実施した。

今期は、下記のとおり実施した。

(1) スポンサー (54社)

種類	名称
プライム 1社	(株)アイスクウェアド
ダイヤモンド 14社	イオンディライト(株)／(株)イトーキ／(株)内田洋行／(株)NTTファシリティーズ／ (株)FMシステム／JR東日本ビルテック(株)／住友セメントシステム開発(株)／ 大成建設(株)／Planon Group／プロパティデータバンク(株)／Vega Project(株)／三井不動 産(株)／三菱地所(株)／森ビル(株)
ゴールド 21社	イナバイインターナショナル(株)／EYストラジター&コンサルティング(株)／ NTT都市開発(株)／(株)大林組／(株)オカムラ／鹿島建設(株)／コクヨ(株)／(株)ザイマックス ／三機工業(株)／清水建設(株)／高砂熱学工業(株)／TME S(株)／(株)竹中工務店／日本 郵政(株)／日本メックス(株)／(株)ビケンテクノ／日比谷総合設備(株)／福井コンピュータ アーキテクト(株)／プラス(株)／(株)ぶんぶく／(株)山下PMC
シルバー 18社	(株)アプトシステム／共立建設(株)／(株)構造計画研究所／コニカミノルタ(株)／(株)コンス テックホールディングス／ジョーンズラングラサル(株)／(株)スターメンテナンスサ ポート／総合警備保障(株)／大星ビル管理(株)／ダイダン(株)／(株)ディー・サイン／ 東急不動産(株)／東京ガス不動産(株)／東京美装興業(株)／(株)日建設計／ (株)日本設計／ファシリティパートナーズ(株)／(株)ユニティ

- (2) 企業紹介ビデオ：スポンサーランクに応じて3分～30秒の企業紹介動画の配信をした。
- (3) 企業紹介カタログの掲示：スポンサーランクに応じてカタログを4点から1点を提示した。
- (4) ホームページ：2021年1月～3月、スポンサー広告はホームページに掲載し、各企業ホームページとリンクを設定した
- (5) 機 関 誌：2021年冬号機関誌「JFMAジャーナル」にスポンサー広告を掲載した。

付 8. 交流事業

付8 交流事業

今期は、主として下記の交流を行った。

(1) ファシリティマネジメントフォーラム 2021 における交流

① アジアFMサミットの開催

日 時：2021年2月22日～26日、ビデオオンデマンド配信
中国（中国国家標準化管理委員会）、韓国（KFMA）、タイ（TFMA）からFMのトップリーダーが参加し、日本のコーディネータを含めて、COVID-19感染拡大に対する各国の働き方の変化、ワークプレイスの変化について動画によるプレゼンテーションを行った。

(2) その他海外のFM関連団体との交流（ISO関連を除く）

① 欧州FM組織ネットワーク、EuroFMとの情報交流

参加者：松岡利昌（JFMA 理事、EuroFM アンバサダー）

概 要：欧州、アジアの各国アンバサダーとの非定期情報交換

② KFMA オンライン国際シンポジウムへの参加

主 催：Korea Facility Management Association

日 程：2020年11月

参加者：成田一郎（JFMA 専務理事）

概 要：COVID-19 に対する日本のFM状況について